

図書館だより

発行 多可町図書館
〒679-1133
多可郡多可町中区糺屋 434-11
TEL 0795(32)5170
FAX 0795(32)5171
http://www.library.taka.hyogo.jp/

「図書館と私」

中区 藤岡羽純^{はすみ}

私は、図書館の雰囲気が好きです。図書館に入った時に感じる紙のにおいは、私の気持ちを落ち着かせてくれます。

多可町図書館は私が小学校2年生の時に開館しました。それまで図書館に行ったことがなかった私は、母に誘われて初めて図書館へ行きました。小学校の図書室より広く、本の種類がたくさんあり、当時から本好きだった私にとって図書館はよい遊び場であり、大切な場所になりました。

小さい頃は『かいけつゾロリ』や『怪談レストラン』をよく読んでいました。

夏休みに入ると図書館が私の住処のようになりました。10時の開館に間に合うように夏休みの宿題をもって図書館に行き、ササツとその日やる分の宿題を終わらせてからずっと本を読んでいました。お昼ご飯は家に食べに帰りましたが、食べ終わってすぐにまた図書館へ行き、閉館ギリギリまでいたのを覚えています。

私がこのように図書館にかじりつくようになったのは、毎年、夏休みに図書館が企画しているスタンプラリーをするためでした。スタンプラリーをやるきっかけは、弟が私にスタンプラリーでもらった景品を自慢したことからです。物につられて始めたスタンプラリーでしたが、指定された本を読み、その中から答えを探し出すのはとても

楽しかったのを覚えています。指定された本のジャンルは幅広く、普段の私なら読まないような分厚い本もあればよく読んでいたものもありました。いつもは読むことを避けるようなとつとつきにくそうな本も、読んでみると意外と面白く、気がつけば自分のお気に入りの一冊になっていました。このスタンプラリーのおかげで私の本のジャンルはどんどん広がりました。

私はこの図書館のおかげで本の楽しさに目覚め、本が好きになりました。そんな本の楽しさを教えてくれたこの図書館が大好きです。私はこの春から進学のため、この町をはなれますが、自分のとっておきの本に巡り合うために、これからもいろいろな図書館を利用したいと思っています。



ことばの葉だより

脚本家に憧れた イヤミス作家

湊かなえ 編

最初買った本がこれじゃなかったら
その次を買わなかったかもしれない。

—— 雑誌「ダ・ヴィンチ」2011年2月号
インタビューより ——

※イヤミスとは…イヤな汗がたっぷり出るミステリー小説のこと。トリックや謎解きよりも心理描写が中心となっている作品のため、事件は解決してもすっきりとした気持ちになれないことからこの名がついたようです。

「色褪せた 映画の半券 時止める」

この川柳のお題は「鞆」でした。

私は「公募ガイド」を買って、パソコンに向かい、創作活動に取り組んで、最初の応募作品です。これが、見事に最優秀賞を頂きました。淡路島で暮らし始めて、6年目の秋の事です。

さて、それからは600文字のシナリオに応募すると3度目で優秀賞を頂きました。次には、テレビ朝日が主催するシナリオ大賞の三次審査まで通過したり、BS-iの新人脚本賞で佳作に入選するなどしているうちに「脚本家になれるのでは?」と思っていました。

でも、テレビ局の集まる東京での生活となると難しいので、地方に暮らしながらも書ける小説の道を選んだわけです。最初に書きました、川柳にある「映画」の2文字は「今、思えば不思議な回り合わせ?」と思います。当時は、映画の原作小説を書くなどとは想像も出来ない事でした。

デビュー作の『告白』は、松たか子さん主演で2010年に公開され、吉永小百合さん主演の『北のカナリアたち』は、2012年に公開。そしてこの2014年の春には、『白ゆき姫殺人事件』が井上真央さん主演で公開されています。他の小説は、多くのテレビドラマや漫画本になったりもしています。

ぜひ、話題の原作小説を多可町図書館で手にして下さいね。

*(湊かなえさんの独白手法を真似て紹介文を作成しております)



春です。新しい年度が始まりました。今年の図書館まつりは6月上旬に開催予定です。恒例の本のリサイクル広場や楽しいイベントを企画しています。みなさん、ぜひ図書館に遊びに来てください。(け)

【こたえ】 I・・・① II・・・③
III・・・③ IV・・・④ V・・・④

湊かなえさんに関するクイズです。

I. 中学生の時、初めて自分で買った本は

- ①『セーラー服と機関銃』
- ②『天国にいちばん近い島』
- ③『ロビンソン漂流記』
- ④『そして誰もいなくなった』

II. 武庫川女子大学時代に所属していたサークルは

- ①バレーボール同好会 ②剣道同好会
- ③サイクリング同好会 ④山岳同好会

III. 青年海外協力隊で2年間、女子校の家庭科を教えた国は

- ①フィジー ②サモア ③トンガ ④ソロモン

IV. 生まれ育った因島の実家が営む果樹園は

- ①ぶどう園 ②なし園
- ③いちご園 ④みかん園

V. 『告白』は、「2009年の本屋大賞」を受賞しましたが、2013年の受賞作は

- ①『天地明察』 ②『謎解きはディナーのあとで』
- ③『舟を編む』 ④『海賊とよばれた男』

【こたえ】は左下にあるよ

H25年度 利用状況(3月11日現在)

個人登録者数: 9,310人

総利用者数: 31,017人

多可: 22,212人 加美: 4,391人 八千代: 4,414人

総貸出冊数: 156,156冊

多可: 116,053冊 加美: 19,744冊 八千代: 20,359冊

貸出密度(貸出冊数÷自治体人口): 6.9

【図書館カード更新のお知らせ】

昨年の4月より、図書館カードの有効期限が5年になりました。登録から5年を経過した方は、来館時に随時更新させていただきます。該当の方は利用申込書を再記入のうえ運転免許証・保険証等をご呈示ください。

※カードはそのままお使いいただくことになりまので、期限がきているからといって捨てないでください。





百人一首・いろはかるた

1月11日

↑百人一首
←いろはかるた

小学生以下を対象とした、年明け恒例の“かるた会”。今年も、3年生以下のいろはかるた、4年生以上の百人一首に多くの子どもたちが集まってくれました。子どもたちの真剣な表情は、札を一枚とるごとに笑顔に変わり、会場内は和やかな雰囲気になっていました。

みどり保育所

1月22日



みどり保育所のみんなが、元気いっぱい図書館に来てくれました。おはなし会ではいつも「おはなしのろうをく」を灯します。そして終りに子どもたちに吹き消してもらおうのですが、一度で消えれば願い事が叶うと言われてい

ます。今回は1月生まれの人に代表して消してもらいました。みんな願い事が叶うといいですね。

八千代交流広場 多世代交流イベント

3月2日



八千代プラザで開催された多世代交流イベントに図書館も参加しました。今回はおひなさまのモビールづくり。眼鏡をかけたおだいりさまやウインクしたおひなさまなど、様々な表情の作品が出来あがっていました。

玉岡かおる講演会

1月26日



玉岡さんの作品です。

開館10周年記念第2弾として、人気作家の玉岡かおるさんをお招きしました。まず普通の小説が原稿用紙1500枚程度であることや、本は表紙など装丁全てに意匠が凝らされていることなど、図書館ならではのお話をいただきました。

本題の女性の生き方については、多くの作品の舞台が身近なこともあり、聞き手も一層熱が入りました。サイン会では、一緒に写真を撮られる方もあり、思い出深い講演会となりました。

八千代西小1・2年生

1月31日



八千代西小の1・2年生が来館。おはなし会の後、個人とクラス、それぞれに借りる本を楽しそうに選んでいました。選び終わった後、絵本コーナーに集まり、図書館説明で紹介した大型絵本を先生に読んでもらっていました。

後日、お礼の手紙と写真をいただきました。

斉藤卓治作品展示&ワークショップ

3月22~28日

3月29日



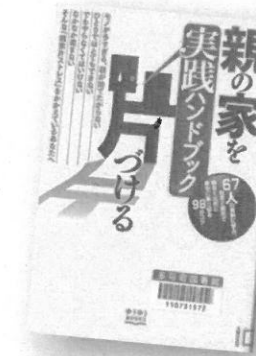
斉藤卓治さんを講師に小学生を対象としたペーパークラフト講座を開催しました。参加者はピンセットを上手に使い、器用にてんとう虫を作りあげていました。

また、講座に先駆けて斉藤さんの作品も展示しました。とても紙で作られているとは思えない数々の作品は見る者の心を引きつけました。

『センセイの靴』



川上弘美／著
平凡社
ジャンル：小説
(Fカワ)

『親の家を片づける
実践ハンドブック』

主婦の友社／編
主婦の友社
ジャンル：実用書
(367シ)

『もりのへなそうる』



渡辺茂男／作
福音館書店
ジャンル：児童読物
(K913ワ)

38才独身OLのツキコは、60代の松本春綱先生をセンセイと呼ぶ。高校で国語を教わったが、さほど印象に残らなかったセンセイ。偶然居合わせた居酒屋で名前がわからないのをごまかすためにセンセイと呼びかけた、ツキコの中のはじまり。恋愛には程遠い二人の関係が、袖触れ合うも他生の(深い前世からの)縁のごとく綴られていくストーリーは、時には読む者の気持ち先回りさせられるほどゆっくり、時には不意に予想を裏切るほど大胆に進んでいきます。季節の変わり目にお薦めのノスタルジックスローな物悲しくも温もりのある、とつても大人な恋愛小説です。(と)

今問題となっている「親の家の片づけ(親家片)」。片づけに取りかかるきっかけは様々ですが、大抵の場合モノが多すぎてひとりではできない、親がモノを捨てたがらない、その結果なかなか進まない、そんな負のスパイラルによってストレスを抱え込み、挫折することが多いようです。そして、うつかりしていると、瞬間に年月は過ぎ、体力や気力が衰えて、余計に大変になっていきます。片づけなければならぬのに何から手を付けられないのか分からず悩んでいるあなたにぜひお薦めしたい一冊です。子世代に同じ重荷を背負わせることのないよう、早いうちから少しずつ整理をしていきたいものです。(な)

てつたくんは5才で幼稚園に行っています。みつやくくんは3才で幼稚園に行っています。ある日、二人は一緒にいた地図とお母さんに作ってもらったいちごのサンドイッチを持って、森へ探検に出かけます。そこで二人は、とてもきれいな、赤と黄色の縞模様の大きな大きな卵を見つけます。二人は、草や葉っぱをいっぱいかぶせて卵を隠し、「ひみつです」と立札をします。

こどもたちの日常が手に取るように描かれ、思わず微笑みが浮かびます。でも、こどもたちは真剣そのもの。さて、二人と卵はどうなりますやら……。幼いお子さんと一緒に楽しんでいただきたい一冊です。(み)

図書館だより

発行 多可町図書館

〒679-1133

多可郡多可町中区糺屋 434-11

TEL 0795(32)5170

FAX 0795(32)5171

http://www.library.taka.hyogo.jp/

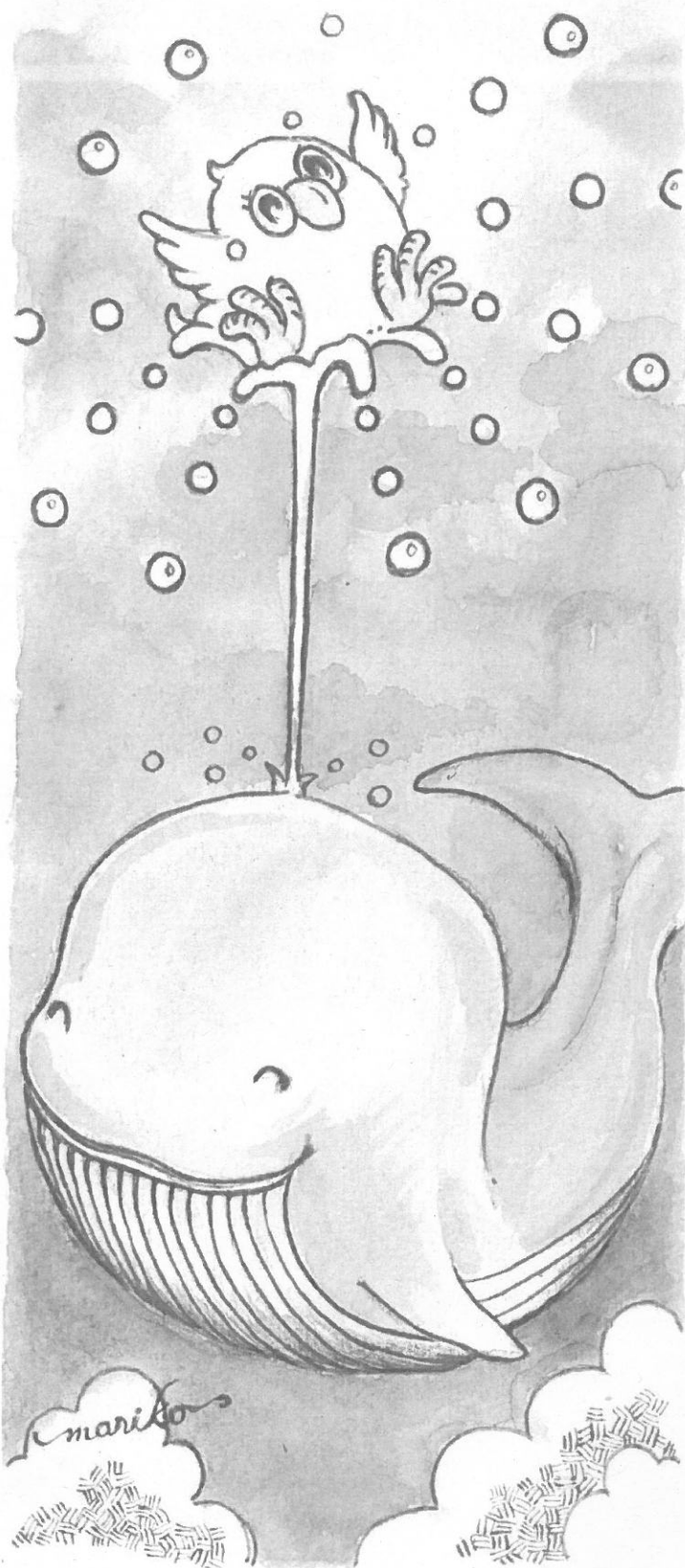
「絵本が育てた想像力」

書家 ことうみのる

「それだけ言葉が出てくるのは、本をたくさん読んでいるんでしょう？」
仕事柄、言葉とは切っても切れないことをしていますので、こう言われても不思議ではないのですが、みなさんが思っているほど読んでいるとは思えません。そんな私が小さい頃に大好きだったのが絵本です。ただ、それらは読むというよりも「みる」ということでした。ページをめくるたびに広がる物語の中で、私の空想が始まります。そ

の空想は、話の筋に沿わないこともたびたびありました。ただ、頭の中に広がる物語には決まって自分自身が登場します。情景が浮かび音が聞こえ、感情が動く。その中で、喜びも悲しみも体感していくのが小さい頃の私の楽しみでした。そんな私は変わっていたのかもしれませんが、その頃の想像力が今の私を築いているのかもしれない。私の仕事の中で「その人をみて即興で言葉を綴る」というのがあります。目の前にいる人をみて、頭の中に浮かんだ言葉たちをそのまま書き下ろす、というものです。それをする時の私は、小さい頃に絵本を見たときと同じよう

に、先入観や固定観念を置いておいて、真っ白にした頭の中で浮かぶ言葉を紡ぎ作品にしていきます。子どもの頃に読んだ絵本の数々が私の空想という名の発想力を育てました。だからこそ、今に活かされているといえます。
さて、そんな私の目標のひとつに絵本をつくることがあります。そして、ただ作るだけでなく、つくった絵本をみてくれる子どもたちがそれぞれの想像力を広げてくれれば・・・と私自身、ワクワクと空想しています。この空想が目標を達成させるための私にとっての原動力となっていくからです。絵本との出会いに「感謝」です。



こと は 言の葉だより

数々の海外文学を世に送りだした翻訳家

村岡花子 編

「いいか、はな。華族の娘なんかに負けるな」父・逸平から東洋英和女学校に送り出されたのは、花子 10歳の時でした。身分の違いが歴然と存在し、女子に教育はいらないとされていた明治時代において、庶民の娘が高等教育を受けるということは異例のことでした。そんな中、花子は自分の居場所を求めて必死に英語にこらいつき、圧倒的な英語力を身につけます。その甲斐あってか学校中でも知られる存在となった花子。人の輪が次々とひろがり、中でも、柳原輝子との出会いは花子の人生に大きな影響を与えます。

ただ、花子の人生は順風満帆ではなく、卒業後家計を助けるため、やむなく故郷に帰り教員生活を送ることになります。しかし夢をあきらめず仕事のかたわら『婦人新報』への寄稿も続けていました。そして、ある研究会に参加したことがきっかけで自分の進むべき道を自覚するのでした。「日本の若い人たちに青春物語を届けたい」。そう、それがみなさんご存じの名訳『赤毛のアン』への助走だったのです。

風呂敷に包まれた『赤毛のアン』の翻訳原稿は命の次に大切なものとして花子の書斎と防空壕との間を往き来し、太平洋戦争の最中、秘密裏に翻訳されました。今、私たちが身近な物語として手に取ることができるようになったのはそのおかげかもしれません。数々の海外文学を世に送り出した村岡さん。その村岡さん同様、空想の翼を広げに図書館へ来てみませんか。

いま曲り角にきたのよ。曲り角をまがったさきにはなにがあるかはわからないの。でも、きつといちばんよいものにちがいないと思うの。

—— 『赤毛のアン』より ——

村岡花子さんに関するクイズです。

- I. 初めて書いた創作童話は？
①『夢の梯子』 ②『青イクト』
③『りすのゆめ』 ④『紅い薔薇』
- II. 花子が初めて訪れた海外の国は？
①イギリス ②アメリカ
③カナダ ④スウェーデン
- III. 花子が開いた家庭文庫の名前は？
①みどり文庫 ②道雄文庫
③恵理文庫 ④花子文庫
- IV. 花子が開いた文庫を手伝っていた翻訳者は？
①渡辺茂男 ②瀬田貞二
③与田準一 ④光吉夏弥
- V. 400冊以上の翻訳を手がけた花子。一つだけ違う訳者の本が混ざっています。さて、どれ？
①『ごきげんならいおん』
②『アンディとらいおん』
③『いたずらきかんしゃちゅうちゅう』
④『マドレーヌといぬ』
- 【こたえ】は左下にあるよ

※『村岡花子の世界』(河出書房新社)、『雑誌MOE 2014年5月号』を参考に作成しています。



ふくちゃんのウインク

5月にはムーミンの生みの親トーベ・ヤンソンの生誕100年にあわせて特別展示をし、関連本を借りていただいた方にグリーティングカードをプレゼントしました。

図書館ではこれからも何かワクワクする楽しいことを企画していければと思っています(け)

【こたえ】 I・・・④ II・・・②
III・・・② IV・・・① V・・・④

さらに、お・ま・け

村岡さんに関する書籍の一部をご紹介します。



「腹心の友」に贈る、珠玉のエッセイ集

『腹心の友たちへ』
村岡花子／著



花子の生涯をたどる伝記決定版

『村岡花子の世界』
村岡恵理／監修



『曲り角のその先に』
村岡花子／著



朝ドラ「花子とアン」の原案本

『アンの子りかご』
村岡恵理／著



花子の生涯を、アンの世界を交えて描いたファンタジー絵本

『アンを抱きしめて』
わたせせいぞう／絵
村岡恵理／文

エッセイ集
第2弾

中南小1年生

4月16日

糺屋公園への遠足をかねて、中南小の1年生が図書館に来てくれました。クラスごとにおはなし会を開催。みんな楽しそうに聞いていました。

トライやる

6月4～8日

今年は、通常の図書館業務に加え、図書館まわりの準備やミニ縁日の手伝いなど、大忙しの5日間でしたが、みんな頑張ってくれました。
※今年も図書館だよりのロゴを書いてくれました。



特別おはなし会 5月10日

「こどもの読書週間」に合わせて特別おはなし会を開催。パネルシアターを演じてもらいました。



このほかにも...

6月18日には八千代区3小学校の3年生が施設めぐりの一環として、また6月20日には中町幼稚園のもも組さんが図書館を訪れてくれました。



Book menu



山本一力／著
集英社
ジャンル:小説
(Fヤマ)

『戊辰の追風(おいて)』



森 俊憲／著
池田書店
ジャンル:実用書
(780 モ)

『「筋トレを続ける技術」
自宅で気軽に体脂肪燃焼!』



平田明子／ぶん
高島 純／え
ほるぷ出版
ジャンル:絵本
(Eた)

『モジャキのくすり』

時は嘉永6年(1853年)、黒船来港で世の中が大騒動になっている最中、木更津の薪炭問屋の娘・おきようは、流れ着いた流木の交渉をするために、船で江戸へ向かう途中、思いもかけず船番所で留め置かれることになった。これには、吟味役の女の思惑が絡んでいた。そして、船番所の役人たちもこの状況を利用して悪事をはたらこうとしていた。おきようを迎えに行った江戸の薪炭問屋「上総屋」の手代・仙之助はおきようと互いに思いを寄せ合う仲。仙之助はおきようを救うべく、佃島の肝煎である五兵衛の力を借りて動き出す。悪を許さない江戸の男達の活躍を描いた爽快な長編時代小説です。(よ)

トレーニングを始めたものの、辛くて続かない...また、筋トレをしたいとは思っているけれど時間がない...そういった方も少なくないのでは。
ここで紹介されているものはどれも時短で簡単なトレーニングばかり。人それぞれの体力にあわせて、種目をいくつか組み合わせる行うのが基本で、目的別に14のコースが紹介されています。
食いたいものは食べてOK、やる気にならなければ休んでもOK。これらをリフレッシュと考えるとモチベーションも保てるのでは。筋トレを続けて理想のボディラインを手に入れたいあなたにお薦めの1冊です。(か)

もりにすむゴリラのモジャキのたのしみは、よるにこつそりはなくそをまるめてたべることでした。
あるよる、モジャキがいつものようにはなくそをたべていると、フクロウのロニーに、まいばんおいしそうになにをたべているのか、ときかれます。まさかそれがなくそだとはいえないモジャキ。くるしまぎれに「あたまのよくなるくすりだ」とこたえるのですが、そのうわさがもりじゅうにひろがって、さあたいへん。もりのなかまたちが、くすりをわけてほしいとモジャキのところへつぎつぎとやってきます。はたしてモジャキは、はなくそをどうするのでしょうか。(な)

図書館まつり 6月7日(土)



リサイクル広場

たくさんのご来館
ありがとうございました♪



フィルムカバー講習



ミニ縁日



エフロンシアター



スライムづくり

児童館とコラボのスライムづくり。中学生ボランティアにも手伝ってもらって作業開始。色とりどりのスライムが出来上がっていました。

書家ごとうみのるさんに筆運びのコツを教えていただきました。参加者は文字を自分風にアレンジ!! 楽しいひと時となりました。



ごとうみのるさん ワークショップ



黒田官兵衛よもやま講座

播磨学研究所研究員の埴岡真弓さんを講師にお招きし、官兵衛の一生、黒田家三代と姫路との関わりなどを豊富な資料を基にお話いただきました。NHKの大河ドラマ「軍師官兵衛」とも照らし合わせながら語られる埴岡さんの話に参加者は興味深く聞き入りました。最後に「官兵衛は、生きることが最も厳しい時代に、己の才覚と人柄を力として逞しく生き抜き、中世から近世に時代を大きく動かした人物の一人といえるでしょう。」と評されて講座を締めくくられました。



図書館だより

発行 多可町図書館
〒679-1133
多可郡多可町中区糺屋 434-11
TEL 0795(32)5170
FAX 0795(32)5171
<http://www.library.taka.hyogo.jp/>

「不思議な図書館の記憶」

八千代中学校教諭 大西千都^{ちき}

本というものには独特の香りがあります。教科書や雑誌、文庫本などを初めて開いた時に鼻孔をくすぐる紙とインクのおい。私が幼い頃に通っていた地元の小さな図書館「学びの館」にはそんな香りが閉じ込められていました。旧役場庁舎だった木造洋館を改装して作られた図書館は薄暗く、天井に届くかと思われるほど蔵書でいっぱいでした。重い玄関扉の感覚、リノリウムの床を歩くペタペタという音、古い掛け時計の振り子の動きまで、驚くほど鮮明に思い出すことができるのです。

ある時、私は図書館でとある失敗をしました。家中を探し回っても借りたはずの絵本が見つからないのです。(あの時の焦燥感!何人かの方には共感していたのではないでしょう)か:ことぼとぼと図書館へ向かい、司書さんに正直に話しました。なんと行っていただいたのか、残念ながら思い出出すことができません。しかし、その日もいつものように絵本を選んで記憶があるので、「こちらでも探してみますね」等の優しい言葉をいただいたのではないかと思います。複雑な気持ちで絵本のコーナーを眺めていた時、一冊の本が目に見え込んできました。『オフエリアと影の一座』(ミヒヤエル・エンデ作・フリードリヒ・ヘッヘ

ルマン絵)、それは私がついさっきまで紛失したと思い、探し回っていた絵本だったのです。返却した記憶も記録もなかったのですが、なぜか絵本は図書館の棚に舞い戻っていたのです。『オフエリアと影の一座』はその名のとおりオフエリアという老女と影法師が舞台を演じる奇妙な物語で、お話自体の不思議さと紛失の一件が思い出の中で強く結びついています。そんな体験をさせてくれた図書館も、市町村合併で閉鎖、取り壊しとなってしまいました。しかし、幼少期の夢とむうつつとも知れぬ貴重な時間を過ごした記憶はしっかりと胸の奥に息づいているのです。



こと は 言の葉だより

光と影は人生そのもの

藤城清治 編

藤城清治さんと聞いて、すぐに絵が思い浮かぶ人もいればそうでない人もいるかもしれません。日本を代表する影絵作家でパルナスのCMやカルピスのデザイン(2002年)などを手掛けられています。つい最近では24時間TVでもその制作風景が放映されました。

幼い頃は、無口で絵ばかりを描いていたという藤城さん。本格的に油絵を描き始めたのは昭和16年、慶應の予科(高校)に入ってからのこと。卒業間近に影絵劇を知り、火を燃やしその光がうつし出す影で表現する発想に驚き、またそれは戦時中で光が閉ざされた暗黒の時代だったからこそ、より一層光に感動したのだらうと語られています。

影絵の制作にカッターではなくカミソリを使われるのは、緊張感を持った心の動きをそのまま伝えたいからだそうです。また、影絵はとにかくたくて、きつい印象の作品になりやすいため、タイプ用紙やトレーシングペーパーを十数回も貼り重ねて自然なグラデーションをつくる手法をとっておられます。そのように光の透過率を緻密に計算して出来上がった作品は、透明感とほんのりとした温かみを持って見るものを魅了し続けています。

芸術の秋です。幻想的な世界を作り出し大人から子どもまで幅広い年齢層に親しまれている藤城さんの作品を一度鑑賞してみませんか。



ふくちゃん のウインク

今回の巻頭文は、この夏、図書館に研修に来られた大西先生に書いていただきました。文中でも触れられていますが、本には独特の香りがあり、新刊を開いた時のインクのおいは何とも言えません。電子化が進んでいる昨今、それぞれに長所・短所がありますが、ページをめくる時のあのドキドキ感は紙ならではのかもしれませんね(け)

【こたえ】 I...② II...④
III...① IV...③ V...①

ほんとうのうつくしさやかわいらしさは、ぱっと見ただけではわかりません。もっと奥深いところにあるのです。

— 『藤城清治 光と影の奇蹟』より —



藤城清治さんに関するクイズです。

- I. 藤城さんが好きな日本の作家は誰でしょう。
① 椋鳩十 ② 宮沢賢治
③ 小川未明 ④ 坪田譲二
- II. 影絵をつくるきっかけを作ってくれた人は誰?
① 滝平二郎 ② 原田泰治
③ 安野光雅 ④ 花森安治
- III. 藤城さんが生み出したキャラクター人形は?
① ケロヨン ② カートン
③ モンチッチ ④ ガチャピン
- IV. 影絵を作るきっかけになったのはどこの島の影絵人形をみたからでしょう。
① ボルネオ島 ② スマトラ島
③ ジャワ島 ④ ルソン島
- V. 昭和23年~平成7年まで連載を続けた雑誌は?
① 暮しの手帖 ② 芸術新潮
③ 中央公論 ④ 母の友

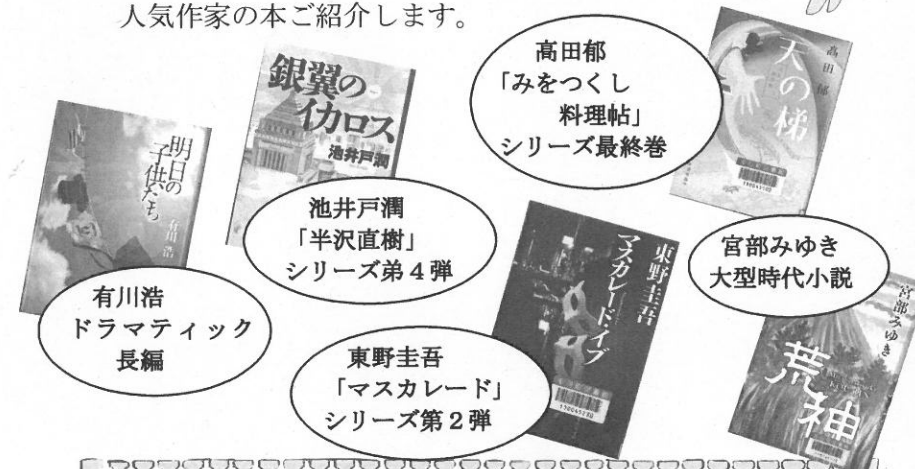
【こたえ】は左下にあるよ



【参考文献】『藤城清治 光と影の世界』(平凡社)、『藤城清治 光と影の奇蹟』(美術出版社)、『MOE2012 年6月号』『影絵はひとりぼっち』(日本図書センター)

秋の夜長にこんな本 - BOOK MENU その3 -

さらにこのコーナーでは、ここ数か月に発売された、人気作家の本をご紹介します。



臨時休館のお知らせ

図書館システム入替のため、通常の休館日に加えて、下記の期間休館いたします。ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いいたします。
10月27日(月)~31日(金)

ビブリンピック

7月19～8月31日

昨年度までは、指定された本を読んでクイズに答える「スタンプラリー」を開催。今年は新たに“50冊読破に挑戦”を加え、名前もビブリオ（書籍）とオリンピックを掛け合わせた名前「ビブリンピック」に変更して開催しました。

夏休み期間中に50冊という設定は少し多いかな？と思いましたが、たくさんの子ども達がこの機会に読書を楽しんでくれたようです。



参加総数：305人

クイズ10問正解者：62人 50冊読破達成者：44人

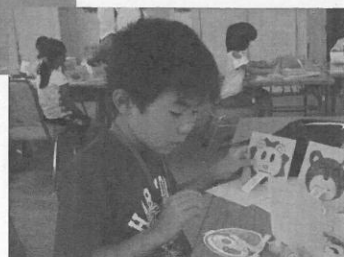
手作り絵本

8月27～28日

今年の手作り絵本教室は、「ちゅるるんアニマルに挑戦！」

この絵本はクマやライオンなどかわいい動物たちがちゅるるんと麵をほおばって、「おいしーい」「からい！」

「うっ、まずい」そして、最後に一言決めゼリフでオチがつくといった内容です。講座には19名の子ども達が参加しました。講師の村上祐喜子さんの指導のもと、2日間合計6時間をかけて、凝りに凝った作品が出来上がりました。参加した子ども達は手作りした絵本の出来ばえに大満足といった様子でした。



多可高校就業体験

7月30日～8月1日

2名の生徒が図書館業務を体験しました。「何事にも根気強く作業する力を学び、働く大変さ・辛さ、その中にある嬉しさ・楽しさを感じた。」と感想を述べてくれています。今後の生活の中で、少しでもこの体験で感じたことを活かしてくれればと思います。



Book menu

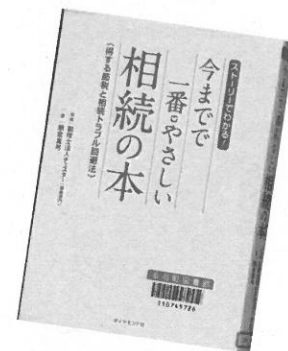
「春の庭」



柴崎友香／著

文藝春秋
ジャンル：小説
(Fシハ)

「今までで一番やさしい相続の本」



朝倉真弓／著

ダイヤモンド社
ジャンル：実用書
(324ア)

「行ってきまあす！」



升井純子／著

出版社 講談社
ジャンル：児童読みもの
(K913マ)

三年前に妻と離婚し、今は取り壊し寸前の古いアパートに住んでいる、元美容師の太郎。ある日、同じアパートに住む、西という女が、塀を乗り越えて隣の家に侵入しようとしているのを目撃します。注意しようと声をかけた太郎は、彼女からその意外な動機を聞かれます。水色の屋根のその家に、異様に執着する西は、ある日、そこに住む家族と親しくなることに成功し、家のあちこちを確認します。しかし、どうしても見たかった風呂場に入る口実がなく、西は太郎に協力を求めるのでした。面倒なことを嫌う太郎でしたが、次第に西のペースに巻き込まれていきます。第一五一回芥川賞受賞作です。(な)

「相続」という言葉を聞くと、自分には関係のないことという印象をもたれる人が多いと思いますが、決して他人事ではありません。「相続」は、ほぼ全ての人が一生に一度、通常は二度(父と母)経験することです。避けて通ることはできません。そして親や兄弟、親戚関係の人生にも大きな影響を与える重大問題です。さらに、来年から始まる相続税改正で基礎控除額が大幅に下がり、相続税を支払わなければならないケースも増えてきます。

歩美が春休みからずっと楽しみにしていた「ノルミル」。これは、歩美の住む北都市内のいろいろなところに、地下鉄やバスに乗って子どもたちだけで見に行くスタンプラリーです。いざ、出発の日、歩美と、陽太、佐伯田君の3人で地下鉄へ。子どもだけの地下鉄なんてはじめてです。券売機の前で頭が真っ白になり、いきなりピンチ。でも、それぞれが力をあわせて、トラブルに会いながらも、いろいろな発見をし、成長してきます。こうした体験から、歩美はお母さんの「行つてらっしゃい」のいろいろな思いも知り、今日も元氣よく「行ってきまあす」とノルミルへ出かけていきます。(か)

秋の夜長にこんな本もいかが

BOOK MENU その2

『窓から逃げた100歳老人』

ヨナス・ヨナソン／著 西村書店



100歳の誕生パーティーが開かれるというその日、老人はホームの窓から脱走を図ります。無計画の行動のため、出会う人すべてが事件に巻き込まれるのですが…。パイタリティあふれるハチャメチャ老人の海外痛快小説。映画化され11月には日本でも公開予定です。

『たんぽぽの目』 村岡花子／著



「花子とアン」に登場したお話が満載。いばりん坊の「みみずの女王」泣き虫女の子の「ナミダさん」やさしい雲の「めぐみの雨がふるまで」などなど、面白いお話からちょっぴりしんみりするお話まで満載です。

『おかんメール』 おかんメール制作委員会／編



ほんのちょっとした文字の打ち間違えで、とんでもない文章になってしまうメール。例えば町内に送った一斉メール。【タイトル：結婚します】このメールに町内みんながどよめきますが、実は小雨でも草刈りを「決行します」と送りたかったらしい等、笑える1冊です。

図書館だより

発行 多可町図書館
〒679-1133
多可郡多可町中区糺屋 434-11
TEL 0795(32)5170
FAX 0795(32)5171
http://www.library.taka.hyogo.jp/

先日『100まんびきのねこ』という絵本を年長児のクラスで読みだした時、

「子どもの気持ち」
兵庫県子どもの図書館研究会
代表 芦田 悦子

私たち大人は、自分が子どもだった頃、
どういう時にどう感じたかというよう
なことはほとんど覚えていないのではない
でしょうか。私もそういう大人の一人なの
ですが、子どもってこんなふうに考えたり
感じたりするのだ、とはたと気づかされる
ことがあります。それは、定期的にある二
つの幼稚園へ行つて、おはなしを語ったり
絵本の読み聞かせをしている時によく起
こります。

代表 芦田 悦子



「それでも、おじいさんと、おばあさんは、
しあわせでは ありませんでした。」と読
んだとたん、「なんで？」と心配げな声。「こ
どもがおらへんからかな・・・」といいま
す。その後、続けて本文「ふたりは とて
も さびしかったのです。」と読むと、子
ども達にはこの二人がさびしいのだとい
う気持ちがひしひしと伝わるようでした。
また、たいていの昔話は、とても貧乏で食
べるものがないとか、ひどい扱いを受けて
下働きをさせられていたとか、主人公が嬉
しい好ましい生活をしていないところか
ら話が始まることが多いのですが、こうし
た状況に聞き手の子ども達はいへん同
情を寄せます。

人生経験が大人に比べずっと少ない幼
い子たちですが、子どもなりに主人公の気
持ちを思いやれるのです。ですから、その
あと主人公がどうなるか、息をのんで聞き
入ることになります。そして、結末で主人
公がしあわせになれば、嬉しそうにし、よ
かったとほっとします。子どもの気持ちは、
おはなしの世界の中で、主人公の運命とと
もに大きく揺れ動き、様々な感情をいだき
ながら、結末にたどり着くのだと思います。
こうした子ども達のおはなしの楽しみ
方、絵本の楽しみ方を目の当たりにして、
私は、子どもって常に正義感にあふれ、ま
じめで、まっすぐに物事をとらえているの
だと思ふことができます。ですから、子ども
達とは、まっすぐに物事をとらえた話や絵
本と一緒に楽しみたいと思うのです。

言の葉だより

ウイスキー ひとすじ筋に生きてきた男

竹鶴政孝 編

1894年、広島県竹原町(現:竹原市)のつくり酒屋の三男として生まれた政孝は、家業を継ぐため大阪高等工業学校(現:大阪大学)の醸造科に入学します。そこで洋酒の世界に興味を持ち、卒業を待たずして摂津酒造に就職。そこでの熱心な働きぶりが認められ、単身スコットランドにウイスキー留学をすることになります。グラスゴー大学とロイヤル工科大学の門をたたくものの、講義の内容はすでに知っていることばかりでした。なんのツテもなく焦燥感にかられた政孝は直接蒸留所に飛び入り、1週間の研修を受け、書物だけでは得られない貴重な体験をするのでした。この物おじしない体当たり精神が後々まで政孝の人生を後押しします。

この留学中には運命の人、リタと出会い結婚、日本へ帰国するのですが、第1次世界大戦後の大恐慌で会社(摂津酒造)はウイスキーづくりどころではありませんでした。政孝は中学の化学教師をし、リタは英語とピアノを教えながら、食いつなぐ日々を送るのでした。そんな時、声をかけてくれたのが寿屋(現サントリー)の社長島居信治郎。彼もまた、本格的な国産ウイスキーづくりを夢みていたのでした。

寿屋へ入社してから10年後、政孝はついに独立。舞台を大阪から北海道・余市へ移し、いよいよ自分が求める本格ウイスキーづくりへと始動するのでした。

図書館にはマッサンに関する本がいろいろあります。ぜひ、ご覧ください。



ふくちゃん
のウインク

昨年11月に図書館システムを入れ替え、それに伴いHPをリニューアルしました。また、12月には読書手帳を作成し、希望の方に配布を始めました。中でも、子どもたちは自分で図書カードを読み込み、シールを打ち出せることから、これを楽しみに来館してくれています。この取組をきっかけに素敵な本と出会えることを職員一同、願っています。(け)

【こたえ】 I・・・① II・・・③
III・・・④ IV・・・③ V・・・①

私はスコットランドに留学していた際、どんな小さなことでも絵に書いて、その説明をノートにつけていたが、このノートがなかったらウイスキー工場はおそらくできなかっただろう。

—— マッサン語録より ——

竹鶴政孝さんに関するクイズです。

- I. 寮生活を送っていた中学時代、政孝の布団の上げ下ろし係をしていた後輩で、のちに総理大臣となる人物は誰？
①池田勇人 ②佐藤栄作
③岸信介 ④田中角栄
- II. 寿屋退職後に立ち上げた大日本果汁でつくったジュースは何ジュース？
①みかん ②メロン ③リンゴ ④バナナ
- III. 昭和16年、私費を投じてあるスポーツ施設をつくりました。その施設とは。
①乗馬クラブ ②スケートリンク
③テニスコート ④スキージャンプ台
- IV. 余市町があるのは何半島？
①知床半島 ②松前半島
③積丹半島 ④亀田半島
- V. 妻、リタの得意料理は？
①カレーライス ②ハンバーガー
③ビーフシチュー ④オムライス



【参考文献】『「マッサン」と呼ばれた男』(日本工業新聞社)、『マッサン語録』(宝島社)、『ウイスキー筋に生きてきた男、竹鶴政孝。』(マガジンハウス)

マッサンに関する本のご紹介



「マッサン」ミニ情報

8歳の時、2階の階段から転がり落ち、鼻を強打した政孝は7針も縫う大けがを負います。この怪我で鼻がさらに大きくなったとか。おかげで一・倍、鼻が利くようになりブレンダーとして役に立ったと語っています。

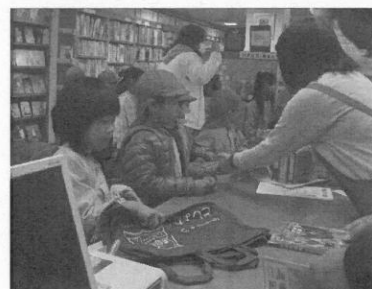
子ども達に絵本やおはなしの楽しさを

10月～2月



— 10～12月 —

自分で本を読む楽しみはもちろんですが、幼い子ども達は絵本を読んでもらってこそ、その楽しみを味わうことができます。また、昔話などのおはなしは耳から聞いてこそ楽しめるものです。それでは一体どんな本を選べばよいのでしょうか。そこで、講師に芦田悦子さんを迎え、講座を開催しています。先生のテンポ良い話術と、なるほどと納得できる講座内容に、参加者はぐんぐん引き込まれ、毎回あっという間に時間が過ぎてしまっています。
※今回、巻頭文も書いていただいています。



中町幼稚園 もも組

11月18日

中町幼稚園のもも組さん 27 名が春に引き続き、2 度目の来館。まずはおはなし会に参加。絵本『やさいのおなか』で「これなあに？」と聞くと元気いっぱい野菜の名前を答えてくれました。その後、場所を移動し本選び。たくさんの中からお気に入り 2 冊を選び出し、1 人ずつ貸出手続きをして帰りました♪



手遊び・わらべうた講座

11月29日、12月7日

姫路おはなしの会で活動されている林美千代さんを講師に迎え講座を開催しました。おはなし会で使える手遊びから、お子さんやお孫さんと一緒に遊べるものなど、たくさん教えていただきました。



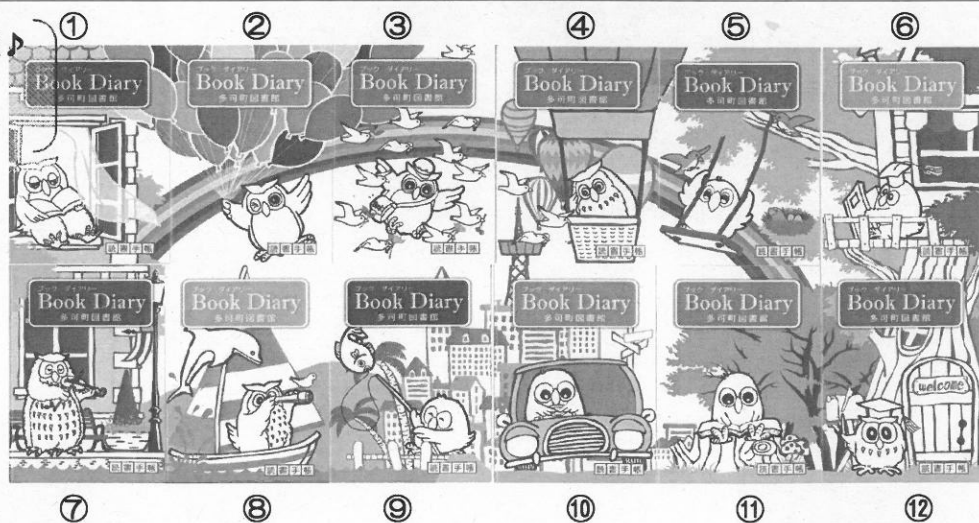
大活躍した！ムーミンコーナー 11月1～30日

昨年5月、ムーミンの生みの親であるトーベ・ヤンソンさんの生誕 100 年を記念して、特設コーナーを設置しました。その後、ムーミン研究の第 1 人者である富原眞弓さん（西脇市出身）から、当館未所蔵の本 18 冊を寄贈いただきました。その蔵書を加え、再度特設コーナーを設置。たくさんの方に利用いただきました。



読書手帳 Book Diary ができました♪

図柄は 12 種類♪
全部そろって
1 つの絵に...



⑦

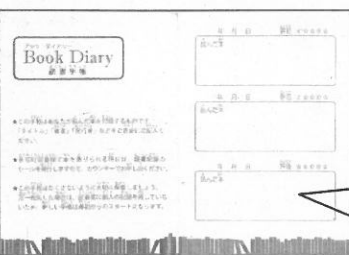
⑧

⑨

⑩

⑪

⑫



こんなシールが打ち出されます。

書名きょうりゅうのおおきさ
著者名岡本三紀夫／イラスト
出版者東京：チャイルド本社
利用日 2014 年 12 月 07 日 評価☆☆☆☆
メモ欄

自分が読んだ本を記録できる読書手帳を昨年の 12 月、作成しました。市内の小・中学生には学校を通じて全員に配布。また、それ以外の方にも希望者には多可町図書館、加美・八千代図書室にてお渡ししています。

図書館で借りていただいた本は、館（室）に備え付けのプリンターからシールを打ち出すことができます。また、家の本や学校で読んだ本などは直接記入して使用していただいても構いません。

手帳 1 冊で 60 冊の本を記録することができます。いっぱいになったら 2 冊目、3 冊目と順次お渡ししますので図書館（室）へお申し出ください。



Book menu

「ゴールデン」

ラッキービートルの伝説



水沢秋生／著
新潮社
ジャンル：小説
(Fミス)

「自閉症の僕が跳びはねる理由」

— 会話のできない中学生がつづる内なる心 —



東田直樹／著
エスコアール出版部
ジャンル：実用書
(493.9ヒ)

「まほろ姫とブツキラ山の大テング」



なかがわちひろ／著
偕成社
ジャンル：児童読物
(K913ナ)

6 年 3 組の羽吹潤平（ジュンペイ）と津田陽太（ヨータ）は、放課後になるといつも一緒に秘密基地で遊んでいて、そこには「ゴールデンラッキービートル」と 2 人が呼んでいる廃棄されたワゴンがあります。ある日ヨータは、ジュンペイがウサギ殺しの犯人と疑っている水沢日菜（ヒナ）が、そのビートルから何かを取り出しているのを目撃。それは拳銃でした。しかし 3 人はある事件をきっかけに距離を縮め、ビートルを中心に友情を深めます。

重度の自閉症という障害を持ちながらも、多くの絵本や著書を発表している東田直樹さん。そんな彼が中学生の時に執筆したのがこの本です。理解されにくい自閉症者の心の中をわかりやすく伝え注目を浴びました。そして、二〇一三年七月にイギリスで翻訳出版された後も二十か国以上で出版され、ベストセラーとなっています。

奇声を発したり、動き回ったりする姿からは、このような文章が書けるとは誰も想像できなかったかもしれない。みなさんの持つ自閉症者への疑問や誤解が解かれ、深い理解を示されることを願います。

また、昨年出版された、まるで詩のような手記『跳びはねる思考』（916ヒ）もオススメです。併せてぜひどうぞ。（な）

生まれて間もなく病気で母を亡くしたまほろ姫は、訳あって人間に化けたタヌキの乳母に育てられるようになります。この乳母には一人息子の茶丸という名のタヌキがいて、二人は本当の兄弟のように仲よく暮らしていました。また、毎日のおいこで何にでも化けるタヌキの修行もしていました。

ある日、二人は化けるときに使うカシワの葉っぱがいっぱいほしくて、ブツキラ山のてっぺんにある天福神社まで葉っぱを採りに行くことにしました。しかし、ブツキラ山は遠くてかわいいうえ、大テングが住む山なのです。日本版ハリーポッターのような楽しい冒険ファンタジーです。（よ）